

令和6年度 簿記大会[初級の部]

仕訳 (制限時間10分)

次の(1)～(10)の取引について仕訳を行いなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。なお、解答欄は全て埋まるとは限らない。

(1) 株式会社設立のため、株式500株を1株当たり32,000円で発行し全額が払い込まれ、当座預金とした。なお、資本金計上額は会社法規定の最低金額とする。

ア. 資本金 イ. 損益 ウ. 借入金
 エ. 繰越利益剰余金 オ. 当座預金 カ. 資本準備金

(2) 商品の仕入契約を結び、内金として300,000円を普通預金口座より支払った。

ア. 仕入金 イ. 前受金 ウ. 未払金
 エ. 前払金 オ. 未収入金 カ. 普通預金

(3) 従業員の出張にともない、概算額100,000円を現金で支給した。

ア. 現金過不足 イ. 旅費交通費 ウ. 現金
 エ. 法定福利費 オ. 仮払金 カ. 仮受金

	借方		貸方	
	記号	金額	記号	金額
(1)	()		()	
	()		()	
	()		()	
(2)	()		()	
	()		()	
	()		()	
(3)	()		()	
	()		()	
	()		()	

令和6年度 簿記大会[初級の部]

帳簿・伝票 (制限時間10分)

第1問

次の取引にもとづいて、商品有高帳を作成しなさい。当社は払い出し単価の計算方法に先入先出法を採用している。商品有高帳の作成にあたり、仕入返品は払出欄、売上返品は受入欄に記入すること。

(取引)

- 4月 1日 商品Aの前月繰越分が20個(@100円)であった。
- 10日 商品A40個を@110円で購入し、代金は掛とした。
- 15日 得意先に商品A30個を@150円で販売し、代金は掛とした。
- 20日 商品A20個を2,300円で購入し、代金は掛とした。
- 25日 15日に販売した商品のうち、5個が返品された。
なお、4月10日に購入した分が返品されたとすること。

商品有高帳

(先入先出法)

A 商品

(数量単位:個、金額単位:円)

日付	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1 前期繰越	()	()	()				()	()	()
	10 仕 入	()	()	()				()	()	()
	15 売 上				()	()	()	()	()	()
	20 仕 入	()	()	()				()	()	()
	25 売上返品	()	()	()				()	()	()
	30 次月繰越				()	()	()			
		()		()	()		()			

令和6年度 簿記大会[初級の部]

試算表 (制限時間10分)

問1

合計試算表

借方		勘定科目	貸方	
12月31日の 合計	11月30日の 合計		11月30日の 合計	12月31日の 合計
	1,760,000	現金	1,010,000	
	8,772,000	当座預金	6,435,000	
	2,400,000	受取手形	1,250,000	
	3,450,000	売掛金	2,480,000	
		貸倒引当金	50,000	
	330,000	繰越標品		
	500,000	備品		
		備品減価償却累計額	150,000	
	700,000	支払手形	900,000	
	1,980,000	買掛金	2,800,000	
	900,000	借入金	2,400,000	
		資本金	3,000,000	
	120,000	売上	8,967,000	
	5,840,000	仕入	80,000	
	1,800,000	給料		
	660,000	支払家賃		
	90,000	通信費		
	220,000	水道光熱費		
	29,522,000		29,522,000	

主催 大原簿記公務員専門学校愛媛校
令和6年度 簿記大会[初級の部]

財務諸表 (制限時間10分)

解答は解答用紙に

第1問 次の資料により損益計算書を作成しなさい。(会計期間: ×5年4月1日～×6年3月31日)

決算整理前残高試算表

×6年3月31日

(単位:円)

現金	300,000	支払手形	500,000
電子記録債権	100,000	買掛金	460,000
受取手形	250,000	仮受金	30,000
売掛金	330,000	貸倒引当金	12,000
繰越商物品	210,000	減価償却累計額	1,200,000
建物	3,000,000	資本金	1,450,000
仕入	5,000,000	繰越利益剰余金	36,000
給料	1,580,000	売上	7,450,000
給保	360,000	受取手数料	10,000
雑	18,000		
	<u>11,148,000</u>		<u>11,148,000</u>

[決算整理事項等]

- 仮受金は全額得意先からの商品売買に伴う手付金であることが判明したため、適切な科目に振替える。
- 期末商品棚卸高は¥200,000であった。
- 売上債権の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を設定する(差額補充法)。
- 建物について、定額法により減価償却を行う。(残存価額:ゼロ、耐用年数:30年)
- 保険料は9月1日に12か月分を前払いしている。
- 給料の未払高が¥80,000ある。
- 法人税、住民税及び事業税として¥140,000を計上する。

第1問

損益計算書

自×5年4月1日 至×6年3月31日

(単位:円)

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	()	売上高	()
給保雑	()	受取手数料	()
貸倒引当金繰入	()		
減価償却費	()		
雑費	()		
法人税、住民税及び事業税	()		
当期純利益	()		()